

学校教育目標

たくましく未来を拓く 児童の育成
元気・本気・根気

研究主題

自ら進んで、仲間と学び合う児童の育成
～学習者が主役の授業づくり～

戸河内小学校の児童の実態

○対話において、話すことに抵抗は少なく、自己の学びを深められる。

○相手の考えを聞き取ることが苦手で、「分からない」がうまく言えない。

○標準学力調査の結果から、「書くこと」「話すこと・聞くこと」に課題がある。

めざす子供の姿

○進んで学ぶ子

→自ら進んで学習に向き合い、課題解決できる。

○仲間とつながる子

→対話を通して考えや思いを相互に伝え合い、自分の考えの深まりを感じられる。

○粘り強くやり抜く子

→最後まであきらめず分かろうと学習に取り組む。

学習者が主役となる授業づくり

①ねらい・ゴールの明確化

(単元を貫く問いの提示・単元計画)

②ファシリテート (対話の焦点化、児童の関心・主体性を引き出し

児童同士の学びを繋げる)

③振り返りの充実

(「書く」ことを通して学んだことを意識させる) (児童同士の共有)

(「単元のまとめノート」で自らの学びを再構築・新たな問いの発見)

学級集団づくり

学習規律の徹底 受容的雰囲気・風土

研究仮説

※学習者が主役となる授業づくりをすることにより、対話により考えを深め、自ら進んで仲間と学び合う児童を育成することができるだろう。

検証指標と方法

(1)児童質問紙による肯定的回答する児童の割合 ①『分かった』から、『できた』から楽しいと思っただけ ②「友達と話し合っ、自分の考えを広めたり深めたりしています」 ③「進んで分かったことを伝えたり、分からないことを聞いたりしています」	80%以上	アンケート
(2)振り返りにおいて、本時で分かったこと、もっと学びたいことを記述していると見取れる児童の割合		教師によるノートの見取り(単元ごと)
(3)国・算・理・社の期末テストにおいて、得点率80点を上回る児童の割合	75%以上	期末テスト

取り組みの重点

★協調学習の実践(各学級3回以上)

★振り返りの充実(ノートに記述させる)

→①焦点を絞った振り返り ②新たな問い ③生活との繋がり

★対話タイムの実施(毎週月曜8:20~8:25)

★参観日や学校へ行こう週間での授業・対話タイムの公開



○授業改善

- ・学習者基点の学び
- ・対話場面の設定
- ・対話の焦点化と振り返り